



東アジアへの農水産物の売り込みについて（平成21年6月定例会）

今回の台湾研修では、平成19年度から、「維新伝心米」という商品名で、台湾へ輸出され、スーパー松青で販売されている「JAあぶらんど萩産コシヒカリ」の市場調査を行いました。

維新伝心米は、化学肥料・化学農薬を50%以上削減して栽培された「エコやまぐち50」に認証を受けたお米で、水の貴重な台湾向けに、研がなくても炊けるお米「無洗米」として、1袋2kg入り、日本円約980円で輸出されています。平成20年12月末までの累計は約29トンです。

一方、台湾では、お米は1年に3回栽培でき、大量に生産されるので、2kgが、日本円約380円と、とても安いとのことでした。

「新潟のコシヒカリ」は2kgが日本円約1,370円で、台湾産の3.6倍もの値段がついていました。

しかしながら、「維新伝心米」はいくら探しても見当たらないため、お店の人に伺ったところ、「とても人気があり、すぐに売切れてしまう」ということでした。

「日本のお米はおいしいし、安全だ」と、台湾の方々から高い評価を受けているのだそうです。

私達はスーパーなどの関係者の生の声を聞いて、お米をはじめ、野菜や果物など日本の農水産物は安全で安心という点で、台湾をはじめとする東アジアでも充分通用する、受け入れてもらえる状況にあると、意を強くして帰ってきたところです。

新潟産のお米も販売されていたように、他県も海外への売り込みに力を入れており、他県に負けない努力が必要だと思います。JAと連携をとり、東アジアを中心にターゲットを当ててみてはいかがでしょうか。山口県特産の農水産物の輸出は、新たな市場として、夢が膨らむものではないかと思えます。

山口県は地理的にも東アジアに近いところにありますので、積極的な売り込みを図るべきだと思います。

ご所見をお伺いいたします。

【農林部長答弁】

県ではこれまで、「やまぐちの農水産物需要拡大協議会」の「輸出促進部会」を中心に、輸出への気運醸成を図るための県内企業・団体等を対象とするセミナーを開催いたしますとともに、台湾・中国をターゲットといたしまして、台湾への米・青果物の輸出、上海国際見本市への出展等に取り組んでまいりました。

こうした取組によりまして、中国では練り製品3件の商談が成立をいたしますとともに、台湾では、お示しのように「維新伝心米」がこれまでに累計で約29トン販売され、高い評価を受けております。また、昨年夏に実施をいたしました、キャベツ、ダイコンの台湾へのテスト輸出では、植物検疫や輸送方法等に関する課題も見えてきたところであります。

こうした成果や課題を踏まえまして、昨年12月には、JAグループによる輸出研究会が設置をされ、野菜、果物等の本格的な輸出に向けて検討が進められますとともに、水産物につきましても、県内企業による、東アジア向けの練り製品の新品開発が行われるなど、団体や企業による輸出に向けた主体的な取組も進んできているところであります。